

鳳来寺、四谷の千枚田、田峯城、田峯観音を訪ねる

2021.11.14~15

今年も秋に母のショートステイが決まり、1泊2日の旅を企画しました。この季節は紅葉と温泉が楽しめるコースをと考え、鳳来寺---湯谷温泉---四谷の千枚田---田峯観音---田峯城をターゲットとしました。そして、田峯から稲武へ出て大井平の紅葉を楽しんで、足助・豊田経由で帰ることにしました。

初めからケチが付いた、その出だしは…

今回の旅は出だしから二つのチョンボがあり、やれやれ! というのも、ショートステイの日にちが



決まったので、9月27日に11月14日宿泊で湯谷温泉の宿を手配しました。すると、愛知県の「あいち旅eマネーキャンペーン」が始まりました。ネットで調べてコールセンターで手続きを確かめようと、数回電話するも全くつながりません。やむなくネットで少しずつ確かめていきましたが、宿名を入力する箇所決められた宿しか入力できないフォームになっていました。今度は宿にそのことを電話で確かめると、まだ手続き中なので、10月5日以降に手続きしてくださいとのこと。そのため10月6日に再度ネットの申し込み手続きをしますと、今度はOKでした。ただ、10月8日〜と気になる説明があったのでコールセンターへ電話をしました。今度は電話がつながったのですが、案の定10月8日〜12月31日が対象期間なので、少し早く手続きをしたこと

で対象にならないという。宿泊が対象期間内なので当然 OK だと思うのですが、役所の決めたことは良く分かりません。結局、手続きが8日早いのでだめだということです。でも、この期間内の宿泊者に対して電子マネー7,000円相当を旅行者に還元する趣旨を満たしています。

二つ目は高速道路の日曜割引が復活しました、一つダメでもこれで少しは救われた気分になれると思いました。しかし、母を預けてETCカードを挿入し10時30分頃に出発。豊明インターの手前でコンビニに寄っていつものようにコーヒーを買いました。そして、インターへ進入しようとしたところETCカードが装着されていませんという音声で! 慌ててカードを押し込みましたが時すでに遅くダメ。ETC専用ではなく併用レーンだったので、やむを得ず少しだけバックしてカードを受け取りました。でもこの時も車から降りないとカードは取れませんでした。幸い後続車がいなかったので助かりました。したがってETCカード使用に限り割引される制度は適用されませんでした。

このことがあったので帰りは念を入れて装着を確かめました。が、やはり同じ現象が起きたのです。勘八峽ICから高速に入り、鞍ヶ池PAで休憩してから走り出すとまたも「ETCカードが装着されていません」の音声アナウンスがあったのです。ここでは再挿入して事なきを得ました。

翌日ディーラーに連絡して聞くと、ETC自体の接触不良とか、カードの不備とかが考えられるという。

近く点検予定なのでその時に合わせて調べてもらうことにしました。

鳳来寺山頂のパーキングに駐車したいけれど……

豊明 IC から新東名に入り岡崎 SA に立ち寄って道路マップをもらい、長篠設楽が原 PA で小休憩。ここからすぐの新城 IC で降りて湯谷温泉に向かいます。鳳来寺と東照宮にお参りする予定なので、階段を上るのは遠慮して山頂のパーキングへ向かいました。国道から鳳来寺山パークウェイの案内に沿って進み、くねくね道を上ると係員の人を立てていて車が連なっていました。もう間もなくかと思いきや、係員の言うには「駐車場はこの先 500m」と言うではないか。100m に 20 台の車がいるとして 100 台は待っていることになる。これではたまらないので U ターンして戻り、正規の登り口へ向かいました。

駐車場に車を止めると大きなイチョウの木があり、その下一面は黄色の絨毯が敷き詰められていました。少し歩いて階段の登り口手前の日当たりの良くて、人の通りから見えない場所に腰を下ろしてコンビニで買ってきたお弁当にしました。うらかな小春日和の山間で食べるお弁当はいつもながらとても旨かったです。周りには黄色く色づいたイチョウや赤く染まったモミジがあちこちに見られ、今年はきれいな紅葉に会うことが出来、これだけでも来て良かったと思いました。



イチョウの葉の絨毯



一の門と紅葉

途中の仁王門で引き返す

一息ついてから階段を上り始めました。ここの石段はお寺さんの石段というより山の石段であり、高さが不ぞろいで石の形も不ぞろいです。足を大きく上げたりしなくてはなりませんから、やはりきついです。本堂までは階段が 1,425 段、時間にしたら約 50 分とあります。お参りして下山するには約 2 時間かかります。それやこれやでかなりお疲れモードになったので、仁王門に着いたところで引き返すことにしました。階段は 220 段だったかな？

この仁王門は国指定の重要文化財で、両脇の仁王像と鳳来寺東照宮とともに三代将軍家光の命により、慶安 3 年(1650)着工し四代将軍家綱の時に完成しました。

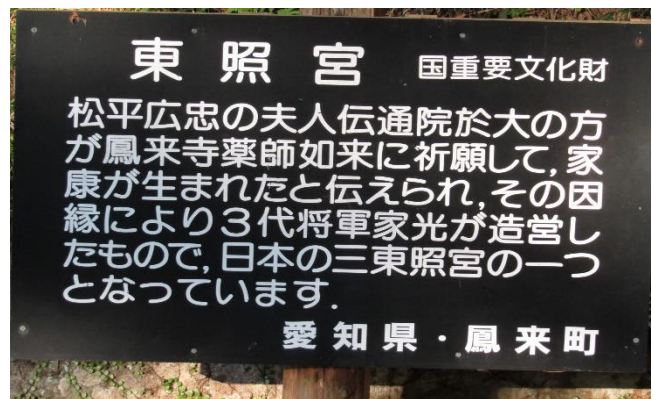
下まで降りて、せっかくなので鳳来寺山自然科学博物館を見学しました。人が多く来ている割に入館者は少なくて落ち着いて見学できました。動物、植物、鉱物の展示の中で記憶に残っているのは、仏法僧の鳴き声はコノハズクで、その両者の実物です。仏法僧は意外と小ぶりの鳥でした。ブッポウソウの鳴

き声もテープで聞きました。この鳥は江戸時代から世に知られていましたが、昭和10年にNHKが鳴き声を収録して全国放送したことで、全国に知られ観光客が多く訪れるようになりました…という説明の碑がありました。それと、これは初めて知りましたが近くに金山があったということです。

再び山頂のパーキングへ向かい、東照宮に参拝

博物館の見学を終えたのが午後2時半頃でした、今から山頂へ向かえば3時頃になるのでお客さんも帰り始めると予想し、再び山頂のパーキングへ向かいました。くねくねの鳳来寺山パークウェイを登っていくと、車の列にぶつかりました。そこはパーキングから100mの地点の立て札がありました。まだまだ帰るお客さんは多くないみたいでした。

しかし、ここまで来て東照宮にお参りせずに帰るわけにはいきません。今日は湯谷温泉に泊まるので



気長に待つことに腹を決めました。その間に下山してくる車をカウントしていましたが、妻の言うには21台で駐車場にたどり着きました。山頂のパーキングなのでさほど広くはありませんが、それにしてもこれだけの混雑は珍しいとか。やはり、コロナで外出が出来なかったことの反動で、紅葉を楽しみたい人たちが押し掛けたようです。

パーキングから10分ほど歩くも、1,000mほどの高さなので素晴らしいパノラマが広がっていて気分は爽快そのもの。中にはペットのワンちゃんと一緒にのお客さんもチラホラいる。

東照宮のお参りを済ませて鳳来寺の本殿に移動。ここでもお参りをしましたが、何と拍手を打ってお参りをしまい妻に指摘されました。東照宮の続きの感覚でお参りしてしまったのです。改めて仏式でお参りました。とは言え、ここは元々二つとも仏式だったのが神仏分離により、東照宮が神式になったものでややこしい。



鳳来寺の歴史

大宝2年(702)に利修仙人が開山と伝えられ、利修仙人は杉から本尊、薬師如来、日光・月光菩薩、四天王を彫刻したとも伝わっている。天武天皇の病氣平癒祈願を命じられて拒み切れず、鳳凰に乗って参内したという伝承があり、鳳来寺という寺名と山名の由来とされている。利修仙人の17日間の加持祈祷が功を奏したか、天皇は



快癒。この功によって伽藍が建立されたという。鎌倉時代には源頼朝によって再興されたと伝えられていて、参道の石段も源頼朝の寄進と伝えられている。

戦国時代には、近郊の菅沼氏から寺領の寄進を受けたが、豊臣秀吉の時300石のみを許されただけで他は没収された。江戸時代になると幕府の庇護を受け850石に増領される。さらに、家光の治世で大いに栄、徳川家康の生母・於大の方が当山に参籠し、

家康を授けられたという伝えを知った家光が号令を發した。それにより諸僧坊の伽藍が改築され、家康を祀る東照宮が新たに造営され慶安4年(1651)に完成した。最終的には1,350石が寺領となった。

明治になると寺院と東照宮が分離される。これは寺社領没収のあおりを受けていた鳳来寺には大打撃でその衰勢は著しかった。明治38年には高野山金剛峰寺の特命を受けた、京都法輪寺から派遣された服部賢成住職に再建が託された。困窮にあえぎながらも余剰金を残すことが出来たことで、堂宇の改築費用にあてることも考えられたが、服部賢成住職は地域住民に還元することを決断。鳳来寺鉄道、田口鉄道の施設資金、鳳来寺女子学園設立資金に使われた。大正3年(1914)に本堂を焼失したが、昭和49年(1974)に再建された。

湯谷温泉の小さな宿に泊まる

湯谷温泉では小さな旅館に泊まった、今夜は私たちとゴルフに行く男性4人の二組という。そのためお風呂は入り口に立て看板を置いて貸切で使ってくださいと言う。でも私たちは川沿いの露店の貸し切り風呂を楽しみました。明るいうちにお風呂と考えていたのですが、少し遅くなってしまい川の流れる見えないくらいでした。この宿を選んだのは源泉かけ流しで、川沿いの貸し切り風呂付が気に入ったからです。事前に調べたところでは、湯谷温泉で源泉かけ流しの宿とうたっている宿はここ以外になかったのです。私は寝る前と朝も温泉に入り、3回楽しみました。料理は田舎風で豪華とは言えないものの、私好みのもものばかりで大満足。いろいろおしゃべりして分かったことは、宿はおかみさんと娘さんの二人で切り盛りしているそうです。



谷を埋め尽くす「四谷の千枚田」

朝食を美味しくいただき、9時ごろに宿を出発して四谷の千枚田に向かいました。道は分かり易く一本道に行くのでまず間違えることはないと思っていました。バス路線地図を見て分岐する手前のバス停を探しながら走っていると「千枚田」の大きな看板が付いた時には通り過ぎてしまいUターンしてバック。そこからは狭い道がくねくねと続き、対向車が来

たらずりにくいと思いながら進みましたがその心配は無用でした。

写真のような大きな看板が表れて、到着しました。駐車場はここから2km先と案内がありましたが、一度車を降りて辺りを見回してみると、すごい景色が広がっていました。テレビでときどき見るスイスの氷河が流れた跡を思わせるような谷が、山の上に向かって続いています。下の方は幅が広く、上に行くほど谷は狭くなりそこがすべて棚田なのです。さすがにこの景色は圧巻です!! 以前に熊野の丸山の棚田



を山の上から眺めて棚田の中を歩きましたが、ここの方が規模はでかいです。

千枚田の歴史

ここ大代では、明治37年(1904)田植えが済んだころから20日余りも降り続いた雨で、鞍掛山と通称びんぼう山の谷間に泥土がたまり、雨水があふれて山津波となり家屋10戸と田畑が流失し、11人の死者が出る大惨事がありました。

途方に暮れた村人でしたが、鍬とモッコで復興に立ち上がり何年もかかって荒地を田に変えたのがこの千枚田です。千枚田は1,296枚の棚田で、1枚の平均は0.9アール。現在は39戸の人が850枚を耕しています。1戸平均は21枚、最高は62枚耕しているそうです。

この先の駐車場まで行くと広くはないスペースが確保されていました。そこは棚田の上の方で棚田の全体が眺められる位置でした。山と山の間がすべて耕されています。遊びに来て眺めるだけには、とても落ち着いた穏やかな風景と言えます。自然と人が作り上げた素晴らしい景観に感心してしまいます。しかし、農業経営として考えればとても非効率で重労働を強いられる棚田を、守り続けて行くのは大変な苦勞が伴うことと思います。この後、稲目トンネルを抜けて田峯へ向かいました。

戦国時代の物語がある田峯城

奥三河の菅沼家と徳川家との関わりは、戦国時代のはじめ家康の祖父松平清康が三河地方を統一する頃からありました。その頃、設楽町近辺は交通の要塞の地であり、東は今川氏、北は武田氏、西は織田氏



復元された本丸御殿

がせめぎあっていました。長篠の戦いの時には田峯城が大きな役割を果たしたのです。奥三河を領地とする菅沼氏は、徳川派と武田派に二分され相争うことに。弘治2年(1556)田峯城主菅沼定継の時でした。今川氏から織田氏に寝返ったのです。

しかし、今川氏から討伐を受けて敗北。当人は自刃し、菅沼家滅亡の危機に立たされました。この時3歳であった貞継の子・定忠は叔父の定直らの努力により新たに三河の支配者となった徳川家康によって助けられたのです。ところが、成長した定忠と家老・城所道寿は武田氏の調略に乗り家康を裏切ってしまいます。こうして武田派と徳川派に分かれ田峯城の惨劇を引き起こしてしまうのです。

天正3年(1575)長篠の戦いに敗れた武田軍と共に戻ってきた定忠と城所道寿は、留守居役の定直や今泉道善らに入城を拒絶され、城を追われることになったのです。激怒した二人は自分たちが自刃したと噂を流し、1年後の天正4年7月に寝静まっている田峯城に斬りこみ皆殺しにしたのです。

天正10年(1582)織田信長による征伐で武田氏は滅亡します。その後、菅沼定忠は徳川軍に帰参を願い出ましたが、当然認められず誅殺。田峯宗家が滅びた瞬間でした。その結果田峯城に迎えられたのは、終始徳川方として行動した菅沼定利です。その後、彼は幕府に長年仕え旗本となったのです。



よく整備されている田峯城



案内看板に沿って進むと田峯城の駐車場に到着した。説明板やトイレが整備されており、緒川城址とは違うと思った。入口付近で草刈りをしていたおじさんが「今日はお休みだけど、ゆっくり見ていってください」と声をかけてくれました。真ん中の写真のように、少し小高い所に建物が見えておりそんなに大きな規模でないことは分かります。

空堀と思われる堀を渡ると茶畑があり、少しずつ平らになった小さな曲輪が上と下の2段あって、その上が本丸になっていました。本丸の入り口までは自由に行けて、御殿

の見学のみが有料になっていました。でも、そこまで行けば本丸御殿もほぼ全体が見られます。

城跡がこれだけ残っていると戦国時代に想いを馳せるには十分で、緒川城ももう少し何かしら残っていたらと思えてなりません。辺りはまさに山村で緑の山間にあり、すぐ近くに学校もありますのでどかな風景です。そして、三河三観音で知られる田峯観音が目と鼻の先の高台にあります。

田峯観音にお参り

少し高台の駐車場は広い境内にありお土産屋さんもあります。三河三観音の一つとして知られている田峯観音に初めて来ました。ここは曹洞宗で山号は谷高山(やたかさん)、寺号は高勝寺(こうしょうじ)で



本尊は松芽観世音菩薩と十一面観世音菩薩。毎年2月第2土曜日・日曜日の大祭では、国の重要無形民俗文化財の田峯田楽や奉納歌舞伎が行われる。田峯田楽を奉納する際に役者が身を清める田峯観音浄水がある。

(左の写真は上が本堂、下は歌舞伎舞台)

田峯観音と田峯田楽の歴史

文明2年(1470)に田峯菅沼氏の菅沼定信が田峯城を築城し、田峯城の鎮護のために高勝寺(こうしょうじ)を建立した。菅沼定忠の時代である永禄2年(1559)の大祭から田楽を取り入れている。

正保元年(1644)に田峯の日光寺が焼失し、再建の際に段戸山の御料林を誤って伐採してしまった。このことが代官に盗伐の疑いをかけられて、実地検分に来ることになった。途方に暮れた村人は「もし災難を救ってくれたら、たとえ村が三軒になるまで歌舞伎を奉納します」と三日三晩観音堂にこもり村中祈願した。代官が御林見聞する日は6月にもかかわらず、なんと雪が降って切り株が覆

い隠され、村人は盗伐の重罪を免れた。これ以後、田峯観音の大祭では戦時中も休むことなく奉納歌舞伎が続けられているという。

*国の重要無形民俗文化財……田峯田楽。鳳来寺の鳳来寺田楽、新城市黒沢の黒沢田楽とともに「三河の三田楽」と呼ばれ、いずれも国の重要無形民俗文化財。

*愛知県有形民俗文化財……田峯観音の舞台。茅葺・入母屋造りの木造建築。回り舞台がある。

国道257を通り田口、稲武へ

田峯の見学を終えて国道257へ戻り田口を抜けて稲武まで走って、大井平公園の紅葉を楽しみました。ここも駐車場は満杯でなかなか止められない状態でしたが、何とか駐車できました。お客さんはシルバーばかりではなく、若い人たちもたくさん来ていました。去年は遅くて紅葉は見られなかったのですが、今年は抜けるような青空と素晴らしい紅葉を楽しむことが出来ました。

このあと足助を抜けて勘八峡ICから高速に乗り、豊明経由で無事に帰還しました。